

観光地域づくり法人形成・確立計画

記入日：令和7年1月8日

1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを ○で囲むこと	広域連携DMO・地域連携DMO・ <u>地域DMO</u>	
観光地域づくり法人の名称	一般社団法人ますだプライドクリエーション	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	島根県益田市	
所在地	島根県益田市駅前町17-2	
設立時期	令和6年12月19日	
事業年度	4月1日から翌年3月31日までの1年間	
職員数	15人【常勤 4人（正職員 1人・出向等 3人）、非常勤 11人】	
代表者（トップ人材CEO：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 山本 浩章「兼務（非常勤）」 （出身組織名） 益田市	平成30年に益田市観光協会の組織強化等を目的として法人化した当時から観光協会の会長を務めている。 市としても地域DMO設立を支援することとしており、市長としてまた会長として地域DMOに取り組んできた。
DMO法人責任者（COO：最高執行責任者）	（氏名） 菅 隆宏「専従（常勤）」 （出身組織名） ANA 石見空港ターミナルビル株式会社	今までも一般社団法人益田市観光協会の常務理事を務めていたこと、ANAに勤務時には全国各地の地域振興や観光振興にも携わってこられ、マーケティングに関しても知見を有している。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（CMO：チーフ・マーケティング・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 菅 隆宏「兼務（常勤）」 （出身組織名） ANA 石見空港ターミナルビル株式会社 ※現在、専属の人材確保に向けて調整中。	今までも一般社団法人益田市観光協会の常務理事を務めていたこと、ANAに勤務時には全国各地の地域振興や観光振興にも携わってこられ、マーケティングに関しても知見を有している。 ※現在、専属の人材確保に向けて調整中。（民間からの派遣受入れ）
財務責任者（CFO：チーフ・フィナンシャル・オフィサー）	（氏名） 宇津井 巧「専従（非常勤）」 （出身組織名） 株式会社山陰合同銀行	長年、金融機関に勤務され、支店長を務めた経験もあること、また、金融機関退職後も様々な事業所等で重役を担っておられ、財務に関しても豊富な知見を有している。

※必ず記入すること		
プロモーションの責任者（専門人材） ※各部門責任者のうち専従の者については、氏名の右横に「専従」と記入すること	（氏名） 高倉 大「兼務（非常勤）」 （出身組織名） （一社）益田市観光協会	現在、観光協会事務局長として従事している。過去の従事先でもあった一般社団法人石垣市観光交流協会在籍時には、事務局長として勤務する傍ら、国内外でプロモーションを行ってきた実績を持っている。
旅行商品の造成・販売の責任者（専門人材）	（氏名） 川崎 聡美「兼務（非常勤）」 （出身組織名） （一社）益田市観光協会	今日まで3年間観光協会職員として従事し、かつ旅行業取扱管理者の資格も有しており、観光協会として着地型旅行商品や体験プログラム等の造成及び販売を行っている。
財務及びデータ取得・分析担当	（氏名） 板井 泰紀「専従（常勤）」 （出身組織名） 益田市役所派遣職員	市での経験を活かし、財務担当とデータ取得・分析を担当する。 CMOと連携し、マーケティング等を行う。 CFOと連携し、財源確保等に努める。
プロモーション・旅行商品造成販売担当	（氏名） 廣兼 未紗葵「専従（常勤）」 （出身組織名） 益田市役所派遣職員	市での経験を活かし、プロモーション等を担当する。 収集したデータ等に基づき、効果的なプロモーション等を行う。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	島根県 観光振興課（マーケティング、受入環境整備、行政間連携、日本遺産事業） 自然環境課（国定公園及び県立自然公園の利活用） 文化財課世界遺産室（日本遺産「中世日本の傑作益田を味わう」の保全と活用） 島根県県外事務所（現地情報提供、情報発信） 益田市 観光交流課（プロモーション、統計調査、受入環境整備、行政間連携、日本遺産の活用、石見神楽の振興、萩・石見空港の利活用） 農林水産課（農林水産物を活用する商品の販売促進） 産業支援センター（特産品開発及び販売促進、事業所間連携） 連携のまちづくり推進課（地域自治組織との連携、地域公共交通関係） 文化振興課（各文化施設等との連携、各文化財の活用、日本遺産構成文化財の保存・活用）	
連携する事業者名及び役割	〈宿泊、食、商品造成〉 （一社）益田市観光協会、美都町特産観光協会、匹見町観光協会、益田旅館組合、ホテル、島根県飲食業生活衛生同業組合、食品加工事業者、益田商工会議所、美濃商工会、J Aしまね西いわみ地区本部、J Fしまね益田支所、高津川漁業協同組合、島根県芸術文化センター「グラントワ」、島根県立万葉公園、市内各地域自治組織ほか 〈一次・二次交通〉 石見交通(株)、益田地区タクシー共同組合、全日本空輸(株)、ANAあきんど(株)、西日本旅客鉄道(株)、石見空港ターミナルビル(株)ほか 〈日本遺産の推進〉	

	益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会、益田市（情報発信） (株)ひとまるビジョン、(株)山陰中央新報社ほか各報道機関（インバウンド対策） （一社）山陰インバウンド機構、（公社）島根県観光連盟、高津川流域地域通訳案内士事業推進協議会（資金調達） (株)山陰合同銀行、(株)島根銀行ほか各金融機関
官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	【該当する登録要件】① DMO設立に向けて官民連携による下記の組織を立上げ、ビジョン、コンセプト、具体的施策等について協議検討を進めてきた。 (1) 益田市DMO設立協議会（意思決定機関） 市内の3つの観光協会、商工会議所等の関係者7団体により組織。（別添の名簿のとおり）令和4年10月に設立し、今日までに6回の会議を開催。プロジェクト会議で議論したこと等を決定及び承認してきた。 (2) DMOプロジェクト会議（企画立案、実践組織） 市内の観光施設や宿泊施設、交通事業者、商工団体等市内の23事業所や団体により組織。（別添の名簿のとおり）令和4年11月に設立し、今日まで12回の会議を開催。また、その中に6つの部会を設け、DMOの目指すビジョン、具体的施策（案）等について協議検討を進めてきた。 今後DMOの設立に合わせて、政策決定の最高意思決定機関として、観光協会会長、観光協会副会長、観光協会常務理事等を委員とする理事会を設置する。政策の企画立案及び実践にあたり、官民が広く集い、意思の形成を図るため、DMOプロジェクトメンバー（商工会議所や行政機関、経済界、地域振興団体等が参画）によるワーキンググループを設置する。また、商工会議所、観光協会、市、ワーキンググループメンバー等で組織するDMO推進委員会を理事会の下に設置し、協議した内容を理事会に諮る前に事前協議を行う。
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	DMO設立を進めるため、市民誰もが参加でき意見を募ることができる令和3年度に3回の観光地域づくりラウンドテーブル（RT）を開催した。 令和4年度にも一度市民向けDMO講演会を開催したが、令和6年度は下記の日程により山田桂一郎氏（益田版DMO設立アドバイザー）によるDMO講演会を開催した。 ・令和6年4月24日 DMOプロジェクトメンバー向けDMO講演会 ・令和6年6月11日 市職員及び市議会議員向けDMO講演会 ・令和6年11月25日 市民向け（事業者含む）DMO講演会 今後も市民向けDMO研修会や事業報告会等の開催のほか、必要に応じて誰もが参加できるラウンドテーブルを開催する。 民間企業への協力依頼やデータの提供を行い、日々収集したデータや市民アンケートの実情を踏まえたサービスが提供できるようHPに新しい取組みやイベント等の情報を掲載する。 【事業報告会及び事業方針説明会】 令和7年4月 観光事業者や一般市民を対象とした事業方針説明会（予定） 市民向け「広報ますだ」においてDMOの取組方針等について掲載（予定） 以降6月頃（年1回）観光事業者他一般市民を対象とした事業報告会（予定） 【講演会ほか】 随時（年2回程度）市民向け（事業者向け）DMO講演会を予定

法人のこれまでの活動実績	【活動の概要】	
	事業	実施概要
	情報発信・プロモーション	DMO設立に合わせ新法人を設立。 設立後の取組内容（案）としては、既存の観光アプリ等を活用したデータ収集を行い、その取得したデータに基づく、効果的な情報発信やプロモーションを行う。
	受入環境の整備	DMO設立に合わせ新法人を設立。 設立後の取組内容（案）としては、既存の観光アプリ等を活用したデータ収集、訪日インバウンドの誘客等に取り組む。
	観光資源の磨き上げ	DMO設立に合わせ新法人を設立。 設立後の取組内容（案）としては、過疎発祥のまち益田の暮らしを体験する「田舎暮らしツアー」の商品化、石見神楽の知名度向上、既存観光アプリ等を活用して収集したデータに基づく食の魅力向上等に取り組む。
【定量的な評価】		
現時点で取得できているデータは下記のとおり。（島根県観光動態調査に基づくデータ）		
●観光客入込客数		
R3 645,179 人		
R4 646,873 人		
R5 854,070 人		
●延べ宿泊者数		
R3 256,075 人		
R4 231,311 人		
R5 230,338 人		
●外国人宿泊者数		
R3 1,227 人		
R4 1,232 人		
R5 2,122 人		

実施体制

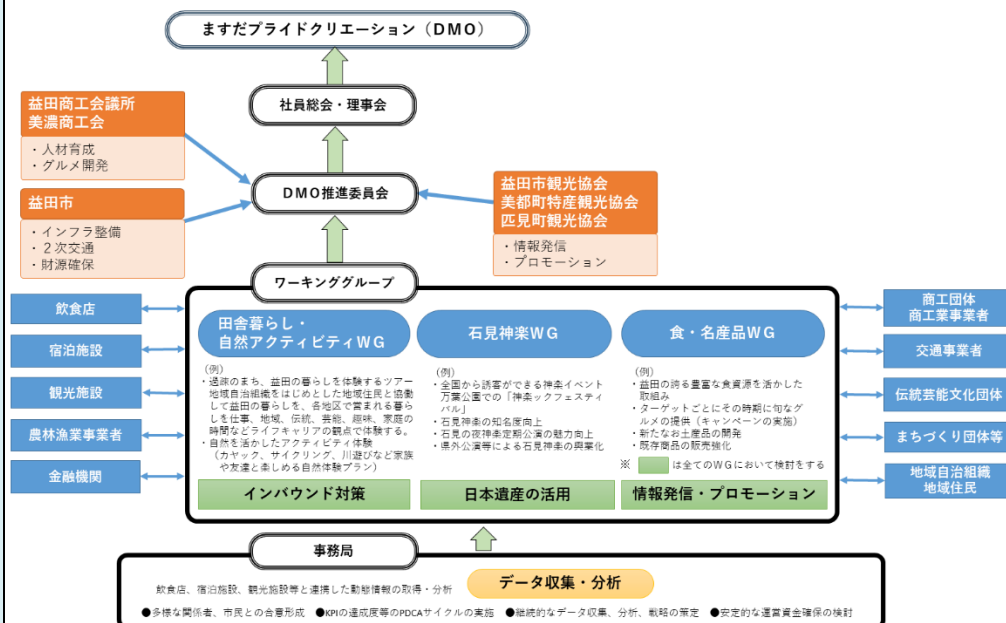
※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。

【実施体制の概要】

DMO登録に向けて、新たな組織を設立する。メンバーには、行政、宿泊業、飲食業者のみならず、交通事業者、文化財、国立公園、農泊、アクティビティ、農林水産業、商工業等、多様な関係者が参画する官民が密接に連携した運営を実施。

また、各分野に分け関係者へ担当の役割分担を行う。

【実施体制図】

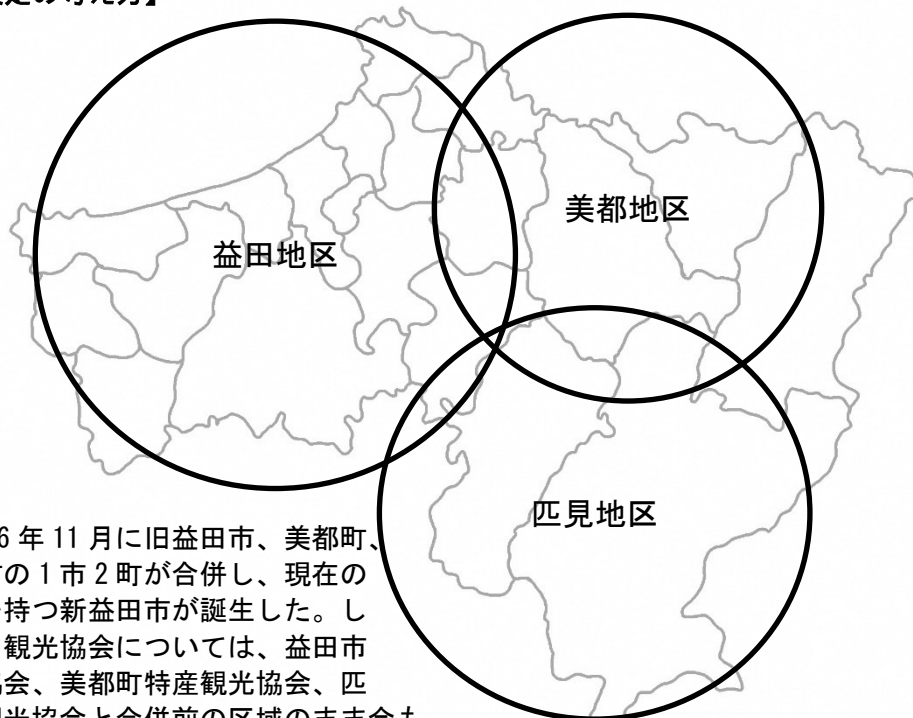


2. 観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】



平成 16 年 11 月に旧益田市、美都町、匹見町の 1 市 2 町が合併し、現在の区域を持つ新益田市が誕生した。しかし、観光協会については、益田市観光協会、美都町特産観光協会、匹見町観光協会と合併前の区域のまま今も

3 つの観光協会が存在している。ただ、情報発信等をはじめそれぞれの事業もお互いが連携しながら推進しているところ。

益田市観光協会は、益田市の観光振興を図る上で、協会と市の役割の明確化、協会事務局体制の強化を目的として一般社団法人として法人登録し、平成 30 年 5 月 1 日から新たなスタートを切った。

【観光客の実態等】

- ・ 令和 5 年度の益田市の観光入込客数は 854,070 人。
コロナ前（平成 31 年度：875,915 人）に比べ△21,845 人となっており、回復傾向は見られるもののコロナ前までは回復していない状況。
- ・ 令和 5 年度の益田市の宿泊者数は 230,338 人。
コロナ前（平成 31 年度：196,078 人）に比べ+34,260 人となっており、新規ホテルの開業等により宿泊の受入キャパ自体も増えていることや中国電力三隅火力発電所の工事関係者の需要によりコロナ禍においても影響は少なく、逆に宿泊者数は過去最高を更新した状況。
- ・ 観光消費額及び来訪者満足度調査については、過去実施しておらず、令和 4 年下期～5 年上期に掛けてアンケート調査を実施したものの、データとしては偏りがある。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

- ・ 施設 萩・石見空港、県芸術文化センター「グラントワ」、市立歴史文化交流館、市立雪舟の郷記念館、匹見峡レストパーク、みと自然の森、道の駅サンエイト美都、道の駅匹見峡、高津柿本神社、戸田柿本神社、宮ヶ島衣毘須神社、美濃地屋敷
- ・ 自然 県立万葉公園、清流高津川、三里ヶ浜海岸、唐音水仙公園、国定公園匹見峡、双川峡
- ・ 温泉 美都温泉、匹見峡温泉、益田温泉、荒磯温泉、多田温泉
- ・ 文化 日本遺産「石見神楽」、益田系操り人形
日本遺産「中世益田の傑作を味わう」（医光寺、萬福寺、染羽天石勝神社ほか）
食文化（100 年フード「高津川の鮎」、ゆず、わさび）
- ・ スポーツ 萩・石見空港マラソン全国大会、益田 I N A K A ライド

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

- ・ 益田地区 施設数：27 収容人数：1,317 人

- ・美都地区 施設数： 3 収容人数： 62 人
- ・匹見地区 施設数： 4 収容人数： 115 人

【利便性：区域までの交通、域内交通】

- ・飛行機
萩・石見空港 東京 1 日 2 便（90 分）
大阪 1 日 1 便（60 分）＜季節運航＞
- ・鉄道
東京方面 東京（新幹線）→新山口（経由：特急）→益田駅（6 時間 20 分）
大阪方面 新大阪（新幹線）→新山口（経由：特急）→益田駅（4 時間 10 分）
九州方面 博多（新幹線）→新山口（経由：特急）→益田駅（3 時間 30 分）
- ・バス
広島方面 高速バス 広島新幹線口→益田駅（3 時間 30 分）
大阪方面 高速バス 大阪駅バスターミナル→益田駅（約 8 時間）
- ・自家用車
広島方面 広島市内→浜田道経由→益田市内（2 時間 30 分）
九州方面 福岡市内→小郡萩道路経由→益田市内（3 時間）

【外国人観光客への対応】

- ・外国語対応観光パンフレット（総合観光パンフ、宿泊施設マップ、日本遺産パンフ、サイクリングマップほか）
- ・観光協会内に英語対応できる職員がいるほか、高津川流域通訳案内士協議会と連携し外国語による観光ガイド等を行っている。
- ・日本遺産「中世益田の傑作を味わう」ホームページの多言語対応（英語、韓国語、中国語）

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	来訪者の消費動向を分析し、消費単価向上に繋げるため。	既存のアプリ等を活用してアンケート調査を自主事業として実施予定。
延べ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握し、戦略立案に繋げるため。	各宿泊施設から毎月データ収集を実施している。
来訪者満足度	来訪者の満足・不満足に繋がっている要因を分析し戦略立案に繋げるため。	既存のアプリ等を活用してアンケート調査を自主事業として実施予定。
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	既存のアプリ等を活用してアンケート調査を自主事業として実施予定。
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	アクセス解析等を活用して把握予定。
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	既存のアプリ等を活用してアンケート調査を自主事業として実施予定。

4. 戦略

(1) 地域における観光を取り巻く背景

益田市においては、人口減少や少子高齢化が進み、特に中山間地域では地域の活力を維持することが困難な状況にあり、減退する地域経済の活性化と雇用の場の確保のため、将来の定住人口の増加だけでなく、交流人口や関係人口の拡大による地域活性化に向けた取組みを行うことが必要である。

その一つの切り口として観光があるが、観光面においても既存の観光施設のほか宿泊施設もあるが、個々の取組みは行っているものの、一体的な取組ができていない。

また、空の玄関口「萩・石見空港」があり、日本全国あるいは世界各国からアクセスできる環境はあるものの、路線便数が少なく、空港到着後は萩・津和野方面または石見銀山方面等にそのまま移動され、空港所在地である当市は通過点となっている現状がある。

また、市内には中世の歴史文化が数多く残っており日本遺産にも認定されていること、豊かな自然環境を活かした自然体験、伝統芸能石見神楽、恵まれたサイクリング環境など、個々の地域資源はあるものの、観光資源のブランド確立ができておらず、活かしてきていない状況となっている。

観光地域づくりを推進する（DMO設立）目的は、市内に存在する地域資源を活かし、個人や事業者同士の連携を促すことにより、地域の稼ぐ力や地域価値の向上を図り、まちに賑わいと活力を生み出し、民間投資の喚起や所得と雇用の増加につなげていくことだと考えている。

(2) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み (Strengths) ・ 豊かな自然（海、山、川） 日本海、清流高津川、国定公園「匹見峡」 自然アクティビティ体験（カヤック他） ・ 伝統芸能「石見神楽」 ・ 日本遺産（中世日本の傑作を味わう） ・ 雪舟庭園（医光寺、萬福寺） ・ 島根県芸術文化センター「グラントウ」 ・ 恵まれたサイクリング環境（100ZERO） ・ 人（人と人のつながり、ひとづくり） ・ 駅前飲食店（夜の飲食の楽しみ） ・ 海の恵み（鴨島はまぐり、イカ、魚貝類） ・ 川の恵み（高津川の天然鮎、ツガニ他） ・ 山の恵み（匹見のわさび、美都のゆず他） ・ 太陽の恵み（メロン、ぶどう、トマト他） ・ 自然災害が少ない（地震、台風他）	弱み (Weaknesses) ・ 情報発信力が弱い（認知度不足） ・ 空港所在地のメリットが活かしていない（市内に滞在せずそのまま他市町へ通過） ・ 地域資源や観光資源が活かされていない（ブランド確立ができていない） ・ 市内における二次交通不足 （駅や空港から観光地へ、市内周遊などにはJRやバス等の公共交通機関ではアクセスが悪く、レンタカー利用が主流） ・ 宿泊需要の大半は工事や火電関係者（観光客需要は多くない。外国人宿泊者も外国人労働者が主） ・ 観光施設の老朽化 ・ 外国人受入れ環境が不十分（Wi-Fi、外国語表記、施設の外国語対応） ・ 人材不足
外部環境	機会 (Opportunity) ・ 国県における観光立国に向けた取組み ・ 益田市を対象エリアとするDMO（山陰インバウンド機構、島根県観光連盟） ・ 山陰道延伸による県東部へ、からの所要時間短縮。広島をはじめとする山陽側へ、からの所要時間短縮	脅威 (Threat) ・ 人口減少による過疎化 ・ 少子高齢化 ・ 空き家の増加 ・ 地域の衰退 ・ 人材不足（後継者不足） ・ 山陰道延伸によりますます通過型に拍車がかかる可能性（市内滞在への誘導が必要）

	・萩・石見空港（首都圏、関西圏、インバウンド） ・近隣観光地（隣接の萩、津和野へは年間 100 万人を超える観光客が訪れている）	
--	---	--

※上記に加え、PEST分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット

○第１ターゲット層

東京及び首都圏のファミリー層

※観光消費額アンケート調査からも首都圏から訪問者が多い。（回答者の約 20%）

○選定の理由

市内には 2,000 メートル滑走路を有し、日本各地と短距離国際線の運航が可能な「萩・石見空港」があり、現在は 1 日 2 往復ではあるが首都圏と直接つながる高速交通網がある。現在の利用者数は 13 万人程度であり、その 7 割は主に高齢者利用を中心とする益田市外を目的地とする募集企画型団体旅行となっており、市内経済に寄与していない。利用者の 3 割となっている個人型旅行、ビジネス旅行の比率を下記の施策により高めていくことが地域経済の持続的な成長に資する。

- ① 益田市と友好都市関係にある神奈川県川崎市との間で取り組んでいる益田市・益田商工会議所・益田市観光協会の三位一体となった関係人口促進策を支援し、特に伝統文化交流とスポーツ交流、教育交流により 150 万人都市からの「若年層・ファミリー層」の交流人口を増加できる。更に、交流推進により「若年層・ファミリー層」の定住人口増加にもつながる。
- ② 友好都市への関係づくりを行っている沖縄県石垣市（石垣空港）と北海道中標津町（中標津空港）とのチャーター便の運航などによる旅行需要創出し、「ファミリー層」をターゲットとした新たな交流人口を増加できる。
- ③ 都会での生活（仕事と子育て）に疲れ癒しを求めているママの癒し旅を造成している益田ママリトリートプロジェクトの活動を支援し、「ファミリー層」をターゲットとした新たな交流人口を増加できる。更に、交流推進により「若年層・ファミリー層」の定住人口増加にもつながる。
- ④ 羽田空港発着枠政策コンテストで評価を得ている益田商工会議所主催の東京線利用促進コンテスト優秀策の実行を支援し、新たな交流人口を増加できる。

例：クラフトビール（高津川リバービア）づくりによる人が集まる地域づくり

益田ママリトリートプロジェクトによる子育てママの癒し旅づくり

○取組方針

上記の施策推進に向けて、益田市、萩・石見空港利用拡大促進協議会、益田商工会議所、民間事業者と連携し、ターゲット地域での益田市の地域資源や観光資源、おもてなし文化の認知度向上を図るとともに、既存の文化施設を中心とした市内周遊に代わる新たな人の流れ（益田の食ツーリズム、マラソンやサイクリングを中心としたスポーツツーリズム、癒しのサウナツーリズム、キャンプツーリズムなど）の造成や、既存の宿泊施設に加え新たな宿泊地となる「若年層・ファミリー層」に優しい安全・安心な施設の整備を支援する。

○第２ターゲット層

山陽、北九州方面からのファミリー層

※観光消費額アンケート調査からも山陽、北九州方面から訪問者が多い。（回答者の約 40%）

○選定の理由

自家用車で山陽自動車道や山陰道を利用すれば、山陽側や北九州方面からも短時間で移動ができるほか、令和 7 年度の山陰道延伸に伴い更に移動時間の短縮が図られる。そこで、益田市の持つ豊かな

な自然環境を活かし、カヤックやバギー等の自然アクティビティ体験を家族で楽しむことができることから比較的若い年代のファミリー層をターゲットとして選定した。

○取組方針

広島からのファミリー層が楽しめる自然アクティビティを提供することにより、リピーターにつなげる取組みを進める。

○第3ターゲット層

インバウンド（地域：欧米【フランス、アイルランド、アメリカほか】、台湾、中国ほか）

○選定の理由

市内には萩・石見空港があり羽田経由で世界各国からも直接つながることができる。また、昨今の円安傾向の影響も相まって国内の外国人観光客は過去最高を記録しているが、まだ益田市内への誘客はできていない現状がある。更には、昨今の外国人旅行者の意識傾向である「直接現地に赴く」という利便性を高めるべく、萩・石見空港の運用性を活かした東アジア・東南アジアをターゲットにしたチャーター便の誘致を積極推進していく。

- ・欧米：羽田空港を起点とした乗継便による誘客
- ・東アジア・東南アジア：チャーター便による誘客

① 欧米（フランス、アイルランド、アメリカほか）

欧州人は日本の滞在期間も長く、観光消費額も大きく経済効果も大きい。特にフランス人は長く滞在し、消費額も高額となっており、島根県の誘客ターゲットにもなっていること。また、アイルランドとは東京オリンピック・パラリンピックの際、益田市はホストタウンとしてアイルランドパラリンピック自転車競技選手団の事前キャンプを受入れ、大会のレガシーとして大会終了後も末永い交流を目指してアイルランド国内の自治体との友好提携を模索していること。アメリカは岩国米軍基地関係者によるバスツアー受入れ等の実績もあり島根県においても比較的観光客が訪れている国であること。

② 台湾

比較的近距離で親日家の多い国でもあり、今までも国の補助事業を活用したインバウンド向け施策についても台湾をターゲットとしてコンテンツ造成等を行ってきたこと。また、市内民間事業者による誘客事業の実績があること。近距離であることから誘客に資するFAMトリップを多頻度で仕組みやすい。

③ 中国（香港）

益田にゆかりのある画聖雪舟をご縁として「中国浙江省寧波市」と友好交流提携を締結し、文化交流やスポーツ交流など様々な面において交流をしていること。中国の航空会社からの情報によると日本での乗入空港の制限（混雑空港）が問題となっており、制限が少なく、他地域への二次交通手段（鉄道、バス）が整っている萩・石見空港への誘致は可能である。

○取組方針

訪日インバウンド需要の波に乗り遅れないよう萩・石見空港の定期便利用者への利便性（運賃、当日乗継利便など）向上やチャーター便誘致に向けたターゲット国でのプロモーション活動を進める。あわせて、外国人が過ごしやすい外国語表記をはじめとする受入れ体制の整備やユニークな旅を好む欧米人への民泊などの体験型旅行宿泊の整備を進める。さらに外国人富裕層向け宿泊施設の誘致を進める。

また、母国への情報発信を目的に在日外国人への誘客を積極的に進める。

(4) 観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	「豊かな自然のもとで、人と人とのつながりがある益田」
②コンセプトの考え方	益田市は、三里ヶ浜海岸をはじめとした美しい日本海、水質日本一に何度も輝いた清流高津川、国定公園匹見峡など、豊かな自然に囲まれている。また、中世益田が味わえる日本遺産をはじめとした歴史文化遺産や石見神楽などの伝統芸能は、今もなお当時のまま残り受け継がれている。 そして、益田への来訪者が、そこで出会った人々と触れ合うことで益田が好きになる、益田の人が好きになる、あの人に会いに益田に来るというように「ひと」がキーワードとなって様々なつながりや交流が生まれている。 更に、全国でも限られたところにしかない空港「萩・石見空港」があることは、日本全国だけではなく、世界各国からも来訪者が訪れる、誘客を図ることが可能となるなど、益田市には他市にはない地域資源や魅力が多くある。過疎発祥の地であり人口減少が進む益田市にとって、豊かな「自然」や「歴史文化」、そして「ひと」などの益田特有の地域資源を守り、そして活かし、地域内消費の拡大を図り、地域産業の活性化につなげる取組みを進めることが重要であると考え。 ※「過疎発祥の地」とは、昭和40年代に島根県美濃郡匹見町（現島根県益田市匹見町）の町長が国会において、昭和38年の豪雪により地域社会の機能が低下してしまった町の現状を「過疎」という言葉を用いて国に訴えたことから広まったとされている。

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	- 既存アプリ等を活用したデータ収集及びポイント付与等について、市内の飲食店や観光施設等に向けて協力依頼をし、協力店舗には毎月分析レポートを提供する。 - DMO推進委員会（月1回） ワーキンググループリーダーを含め、各ワーキングで話し合った内容の共有と、取得したデータを基にして具体的施策を考える。 - 理事会（四半期に1回） PDCAサイクルを回して戦略等の共有や見直しを行う。 - 事業報告会（3月頃を予定） 地域の関連事業者及び市民との合意形成の場として年1回程度を開催する。
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	- 既存アプリ等を活用してデータ収集を行い、観光アンケート調査を（4回程度）実施し、その結果は事業者へきちんとフィードバックする。 - アンケート結果や取得データに基づいて旬な時期にタイムリーな施策を展開し、観光客の誘客強化と満足度向上につなげる。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション	市、3つの観光協会のホームページに掲載している情報をDMOが主体となって役割分担や一元化をし、観光客により効果的にかつタイムリーな情報を掲載する。 - 既存の各団体等のSNSや観光アプリ等を利用した効果的なプロモーションの実施。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

6. K P I（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後3年間における明確な数値目標を記入すること。

※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去3年間の実績も記入すること。

（1）必須K P I

指標項目		2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度	2026 (R8) 年度
●旅行消費額 (百万円)	目標	2,189 (—)	2,857 (—)	3,627 (—)	3,737 (—)	3,847 (—)	3,920 (—)
	実績	2,173 (—)	2,370 (—)	3,129 (—)			
●延べ宿泊者数 (千人)	目標	206 (1)	210 (1)	215 (1)	231 (2)	232 (2)	233 (3)
	実績	256 (1)	231 (1)	230 (2)			
●来訪者満足度 (%)	目標	— (—)	— (—)	— (—)	50 (—)	55 (30)	60 (30)
	実績	— (—)	69 (—)	55 (—)			
●リピーター率 (%)	目標	— (—)	— (—)	— (—)	52 (—)	54 (33)	54 (35)
	実績	— (—)	77 (—)	62 (—)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

今まで益田市としては島根県観光動態調査に基づき、市内観光施設等の観光入込客数及び市内宿泊施設等の宿泊者数（外国人宿泊者数を含む）しかデータ収集を行ってこなかった。

DMO設立に向け、令和4年度下期と令和5年度上期には観光消費額等を含めた独自のアンケート調査を行ったが、データに偏り（一部の施設に集中）が生じている。

よって、今回の目標数値の設定にあたっては、独自で行った観光消費額アンケート調査結果の他、一部は島根県観光動態調査結果に基づき算定を行った。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

R5年度までの値は未調査のため、令和4年度の島根県観光動態調査の単価（日帰り、宿泊、県外、県内の割合も県の単価を採用）を用い、益田市の観光入込客数で算出。R6年度から調査予定

●延べ宿泊者数

島根県観光動態調査にて市内の各施設からの宿泊利用者データを収集しており、そのデータに基づき算出。年間稼働6割を目指す。

●来訪者満足度

独自のアンケート調査結果を勘案して設定。

●リピーター率

独自のアンケート調査結果を勘案して設定。

(2) その他の目標

指標項目		2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度	2026 (R8) 年度
●観光入込客数 (千人)	目標	650	780	990	1,020	1,050	1,070
		(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
	実績	645	646	854			
		(—)	(—)	(—)			
●住民満足度 (%)	目標	—	—	—	50	55	60
		(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
	実績						
		(—)	(—)	(—)			
●萩・石見空港 搭乗者数 (千人)	目標	149	150	151	152	152	152
		(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
	実績	36	105	130			
		(—)	(—)	(—)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

観光入込客数については、第6次益田市総合振興計画との整合性を図った。
住民満足度及び萩・石見空港の搭乗者数は新たに設定した。

【設定にあたっての考え方】

●観光入込客数

第6次益田市総合振興計画に設定している数値を目標値として設定した。

●住民満足度

今まで調査できていなかった住民満足度を新たに調査する。アンケート調査を実施予定。

●萩・石見空港の搭乗者数

定期便（東京線・大阪線【季節運航】）のほか、国内及び国際チャーター便の検討を行う。外国人搭乗者数についても運航会社であるANAの協力をいただき調査する予定。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後3年間について、計画年度毎に（1）収入、（2）支出を記入すること。

※現に活動している法人にあっては、過去3年間の実績も記入すること。

(1) 収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2021（R3） 年度	0（円）	【国補助金】 0（円） 【市補助金】 0（円） 【その他補助金】 0（円） 【販売等事業収入】 0（円） 【受託事業収入】 0（円） 【会費収入】 0（円） 【その他収入】 0（円）
2022（R4） 年度	0（円）	【国補助金】 0（円） 【市補助金】 0（円） 【その他補助金】 0（円） 【販売等事業収入】 0（円） 【受託事業収入】 0（円） 【会費収入】 0（円） 【その他収入】 0（円）
2023（R5） 年度	0（円）	【国補助金】 0（円） 【市補助金】 0（円） 【その他補助金】 0（円） 【販売等事業収入】 0（円） 【受託事業収入】 0（円） 【会費収入】 0（円） 【その他収入】 0（円）
2024（R6） 年度	予算額 35,125,000（円）	【国補助金】 0（円） 【市補助金】 31,625,000（円） 【その他補助金】 0（円） 【販売等事業収入】 0（円） 【受託事業収入】 3,500,000（円） 【会費収入】 0（円） 【その他収入】 0（円）
2025（R7） 年度	予算額（予定） 36,523,000（円）	【国補助金】 0（円） 【市補助金】 36,023,000（円） 【その他補助金】 0（円） 【販売等事業収入】 0（円） 【受託事業収入】 0（円） 【会費収入】 0（円） 【その他収入】 500,000（円）
2026（R8） 年度	予算額（予定） 37,023,000（円）	【国補助金】 0（円） 【市補助金】 36,023,000（円） 【その他補助金】 0（円） 【販売等事業収入】 0（円） 【受託事業収入】 0（円） 【会費収入】 0（円） 【その他収入】 1,000,000（円）

(2) 支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）
2021（R3） 年度	0（円）	【事務所運営費】 0（円） 【販売及び自主事業等】 0（円） 【国県補助事業】 0（円） 【市受託事業】 0（円） 【他事業への補助金】 0（円） 【その他支出】 0（円）
2022（R4） 年度	0（円）	【事務所運営費】 0（円） 【販売及び自主事業等】 0（円） 【国県補助事業】 0（円） 【市受託事業】 0（円） 【他事業への補助金】 0（円） 【その他支出】 0（円）
2023（R5） 年度	0（円）	【事務所運営費】 0（円） 【販売及び自主事業等】 0（円） 【国県補助事業】 0（円） 【市受託事業】 0（円） 【他事業への補助金】 0（円） 【その他支出】 0（円）
2024（R6） 年度	予算額 35,125,000（円）	【事務所運営費】 25,879,000（円） 【販売及び自主事業等】 0（円） 【市受託事業】 3,500,000（円） 【その他支出】 5,746,000（円）
2025（R7） 年度	予算額（予定） 36,023,000（円）	【事務所運営費】 31,030,000（円） 【販売及び自主事業等】 0（円） 【市受託事業】 0（円） 【その他支出】 4,993,000（円）
2026（R8） 年度	予算額（予定） 36,023,000（円）	【事務所運営費】 31,030,000（円） 【販売及び自主事業等】 0（円） 【市受託事業】 0（円） 【その他支出】 4,993,000（円）

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

- ・旅行業による手数料収入の確保
- ・着地型旅行商品販売による収益確保
- ・観光消費額等データ取得及び利用者への還元策等による手数料収入の確保
- ・自社製品の販売による収益確保
- ・宿泊税等による自主財源確保に係る検討
- ・インパクト投資による社会・環境課題への対応と投資収益の確保

8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

島根県、益田市は、(一社)ますだプライドクリエーションを益田市における地域DMOとして登録したいので、(一社)ますだプライドクリエーションとともに申請します。

9. マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携DMO（県単位以外）や地域DMOと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

重複するDMOはなし。

10. 記入担当者連絡先

担当者氏名	廣兼 未紗葵
担当部署名（役職）	一般社団法人ますだプライドクリエーション
郵便番号	698-0024
所在地	島根県益田市駅前町 17-2
電話番号（直通）	0856-22-7120
FAX番号	0856-23-1232
E-mail	info2@masudashi.com

11. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	益田市
担当者氏名	桐木 俊始
担当部署名（役職）	産業経済部観光交流課（課長）
郵便番号	698-8650
所在地	島根県益田市常盤町 1 番 1 号
電話番号（直通）	0856-31-0331

F A X 番号	0856-23-4655
E - m a i l	kouryu@city.masuda.lg.jp

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】

島根県益田市

【設立時期】 令和6年12月19日

【設立経緯】 ①区域に観光協会があるが、役割分担等をした上でDMO新設

【代表者】 山本 浩章

【マーケティング責任者(CMO)】 菅 隆宏 ※民間からの派遣打診中

【財務責任者(CFO)】 宇津井 巧

【職員数】 15人(常勤4人(正職員1人・出向等3人)、非常勤11人)

【主な収入】

市補助金 32百万円、市委託料 3百万円

【総支出】

事務所運営費(人件費等) 26百万円、その他支出 9百万円

【連携する主な事業者】

観光協会、旅館組合、料飲業組合、商工会議所、商工会、JALまね、JFLまね、グラントワ、地域自治組織、ANA、JR、石見交通、タクシー
共同組合、報道機関、金融機関、島根県観光連盟ほか

KPI(実績・目標)

記入日: 令和7年1月8日

※()内は外国人に関するもの。

項目		2021 (R3)年	2022 (R4)年	2023 (R5)年	2024 (R6)年	2025 (R7)年	2026 (R8)年
旅行 消費額 (百万円)	目標	2,189 (—)	2,857 (—)	3,627 (—)	3,737 (—)	3,847 (—)	3,920 (—)
	実績	2,173 (—)	2,370 (—)	3,129 (—)	—	—	—
延べ 宿泊者数 (千人)	目標	206 (1)	210 (1)	215 (1)	231 (2)	232 (2)	233 (3)
	実績	256 (1)	231 (1)	230 (2)	—	—	—
来訪者 満足度 (%)	目標	— (—)	— (—)	— (—)	50 (—)	55 (30)	60 (30)
	実績	— (—)	69 (—)	55 (—)	—	—	—
リピーター率 (%)	目標	— (—)	— (—)	— (—)	52 (—)	54 (33)	54 (35)
	実績	— (—)	77 (—)	62 (—)	—	—	—

戦略

【主なターゲット】

- ①東京及び首都圏在住のファミリー層
- ②山陽・北九州方面のファミリー層
- ③インバウンド(フランス、アイルランド、中国、米国他)

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】

・萩・石見空港の立地を最大限活かし、地域資源や観光資源の認知度向上と、市内で滞在・周遊してもらう仕組み作りを行う。また、ファミリー層をターゲットとして自然アクティビティ体験等の提供により、リピーター獲得につなげる取組を行う。

【観光地域づくりのコンセプト】

「豊かな自然のもとで、人と人とのつながりがある益田」

具体的な取組

【市内施設の周遊策】

・食の魅力を活かし、飲食店や宿泊施設、観光施設等市内の施設と連携してしっかりとしたデータを取得し、マーケティングを行い、各種の施策実施につなげる。

【観光資源のブランド確立】

- ・伝統芸能石見神楽の魅力化(夜神楽定期公演等)、神楽フェスの開催
- ・日本遺産をはじめとした益田市が誇る歴史文化の活用
- ・自然を活かしたアクティビティ体験の充実
- ・恵まれたサイクリング環境を活かした取組

【移住-関係-定住 益田モデルの構築】

・過疎発祥のまち、益田市の暮らしを体験するツアーを商品化・販売し、観光旅行者から関係人口や移住検討者につなげる取組を進める。

【情報発信・プロモーションの強化】

・データに基づき、明確なターゲットにより効果的な方法で情報を届ける仕組み作り

【インバウンド対策の強化】

・萩・石見空港の立地を活かし、世界各国からの誘客を図る。(定期路線の利用及びチャーター便の誘致による空港の活性化)

